

分野(領域)	基礎助産学	科目名	助産学概論
単位(時間)	1単位 30時間	開講時期	前期～後期
講師名 (時間・所属)	川崎圭子 (27時間・看護学院 助産学科教務主任 助産師) 川崎圭子・山口紀子 (3時間・助産学科教員)		
<p><科目設定理由></p> <p>助産師としてのあり方を自ら気づき、考えるよう導くためには、助産の概念、助産学、助産師の専門性について理解する必要がある。</p> <p><科目目標></p> <p>助産学の理論と助産師の役割・責任・業務と生命倫理について学び、自己の助産観を見出す。 助産師としてのアイデンティティを確立する。</p> <p><授業内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 助産の概念 (川崎圭子) 2. 助産師の職制と業務 (川崎圭子) 3. 助産学を支える理論 (川崎圭子) 4. 助産師と生命倫理 (川崎圭子) 5. 助産師の歴史 (川崎圭子) 6. 助産師教育の変遷 (川崎圭子) 7. 助産師の倫理綱領 (川崎圭子) 8. 助産師としてのアイデンティティの形成 (川崎圭子・平尾幸恵・山口紀子) <p><講義の進め方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストに沿って講義をする。 ・さまざまな体験を振り返りポートフォリオを作成する。 ・ポートフォリオを再構築し、自分の目指す助産師像を言語化する。 <p><受講要件></p> <p>なし</p> <p><テキスト></p> <ol style="list-style-type: none"> ①我部山キヨ子編集：助産学講座1第5版、医学書院 ②社団法人日本助産師会編集：助産師の声明、公益社団法人日本助産師会 ③看護六法2020年版：新日本法規 ④進純朗・岡本喜代子：助産力、株式会社日本助産師会出版会 <p><参考文献></p> <p>講師作成資料など</p> <p><評価方法></p> <p>川崎圭子 客観式テスト (2回) 論文体試験 (ポートフォリオ・パラグラフライティング) 助産観演習 論文体試験</p>			

分野(領域)	基礎助産学	科目名	人間関係論
単位(時間)	1単位 15時間	開講時期	前期～後期
講師名 (時間・所属)	池田知子 (15時間・西九州大学他 非常勤講師 臨床心理士)		
<p><科目設定理由> 対象者との信頼関係を構築するためには、人間関係について理解する必要がある。</p> <p><科目目標> 自己理解・他者理解するとともに、コミュニケーションやカウンセリングについて学び、女性とのパートナーシップやチーム医療や関係機関との調整・連携の基礎として信頼関係を築く能力を養う。</p> <p><授業内容> 1. 人間関係論 2. コミュニケーション 3. カウンセリング</p> <p><講義の進め方> グループワークやロールプレイを通して体験に基づいて理解を深める。</p> <p><受講要件> なし</p> <p><テキスト> ①我部山キヨ子編集：助産学講座1第5版、医学書院</p> <p><参考文献> 講師作成資料など</p> <p><評価方法> 池田知子 論文体試験</p>			

分野(領域)	基礎助産学	科目名	ウイメンズヘルス
単位(時間)	1単位 15時間	開講時期	前期～後期
講師名 (時間・所属)	大隈良成 (8時間・大隈レディースクリニック 産婦人科医師) 原 健一 (7時間・NPOスチューデント・サポート・フェイス)		
<p><科目設定理由></p> <p>女性を守る助産師としての責務を学ぶためには、母子や性と生殖に関する課題を理解する必要がある。</p> <p><科目目標></p> <p>女性のライフサイクルや健康課題を理解するとともに、女性の性と生殖に関わる助産師の役割を理解する。</p> <p><授業内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルに応じた援助 (大隈良成) 思春期・更年期 2. 受胎調節法 (大隈良成) 3. リプロダクティブヘルス/ライツ (大隈良成) 4. 性の多様性 (大隈良成) 5. 女性と人権 (原 健一) 6. DVと助産師 (原 健一) <p><講義の進め方></p> <p>テキストに沿って講義をする。</p> <p><受講要件></p> <p>なし</p> <p><テキスト></p> <ol style="list-style-type: none"> ①我部山キヨ子編集：助産学講座1第5版、医学書院 ②我部山キヨ子編集：助産学講座4第5版、医学書院 <p><参考文献></p> <p>講師作成資料など</p> <p><評価方法></p> <p>大隈良成 客観式テスト 原 健一 客観的テスト</p>			

分野(領域)	基礎助産学	科目名	母子の健康科学 I
単位(時間)	1単位 30時間	開講時期	前期～後期
講師名 (時間・所属)	高柳俊光 (12時間・NHO佐賀病院 小児科医師) 松尾宗明 (4時間・佐賀大学医学部 小児科医師) 山口玲子 (6時間・総合福祉センター 特別心理判定員 臨床心理士) 岩本脩平 (4時間・佐賀大学医学部大学院 歯科医師) 久野建夫 (4時間・佐賀駅前南クリニック 小児科医師)		
<p><科目設定理由> 助産過程を展開するためには、新生児及び乳幼児の生理と病態、成長発達について理解する必要がある。</p> <p><科目目標> 新生児及び乳幼児における正常と異常、遺伝や新生児救急蘇生について理解し、助産過程を展開する基礎知識を習得する。</p> <p><授業内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児の生理 (高柳俊光) 2. 新生児の異常と疾患 (高柳俊光) 3. 新生児救急蘇生 (高柳俊光) 4. 乳幼児の成長と発達 (松尾宗明) 5. 乳児健診と予防接種 (松尾宗明) 6. 乳幼児の発達とその障害 (松尾宗明) 7. 歯、口腔の発育・発達と母子の歯科保健 (岩本脩平) 8. 口唇口蓋裂の治療 (岩本脩平) 9. 遺伝学と遺伝疾患 (久野建夫) 10. 遺伝相談 (久野建夫) <p><講義の進め方> スライド・資料・DVDを用いて学生がイメージできるように講義する。</p> <p><受講要件> なし</p> <p><テキスト></p> <ol style="list-style-type: none"> ①我部山キヨ子編集：助産学講座2第5版、医学書院 ②我部山キヨ子編集：助産学講座3第5版、医学書院 ③我部山キヨ子編集：助産学講座8第5版、医学書院 ④仁志田博司著：新生児学入門第4版、医学書院 ⑤細野茂春 新生児蘇生法テキスト第3版、2015、メジカルビュー社 <p><参考文献> 講師作成資料など</p> <p><評価方法> 高柳俊光 客観式テスト 松尾宗明 客観式テスト 山口玲子 客観式テスト</p>			

分野(領域)	基礎助産学	科目名	母子の健康科学Ⅱ
単位(時間)	1単位 30時間	開講時期	前期～後期
講師名 (時間・所属)	江口博敏 (8時間・田中産婦人科 産婦人科 医師) 緒方智宏 (6時間・西九州大学健康栄養学部 講師 管理栄養士) 志岐寿子 (4時間・環境センター 大気水質課長 薬剤師) 野口光代 (12時間・地域医療機能推進機構佐賀中部病院 産婦人科医師)		
<p><科目設定理由></p> <p>人の生殖に携わる支援をしていくためには、性と生殖について理解するとともに、母子の健康状態を診断する基礎を理解する必要がある。</p> <p><科目目標></p> <p>性と生殖に関する母子の健康を支援するため、母子の栄養や免疫、母子を取り巻く環境、不妊症や生殖補助医療についての基礎知識を習得する。</p> <p><授業内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の性 (江口博敏) 2. 生殖の形態と機能 (江口博敏) 3. 生殖に関する疾患 (江口博敏) 4. 母子の栄養 (緒方智宏) <ol style="list-style-type: none"> 1) 栄養状態の評価法 2) 栄養所要量 3) 食生活習慣 4) 有害物質の摂取 5) 成人病(生活習慣病)胎児期発症起源説 5. 母子と生活環境 (志岐寿子) <ol style="list-style-type: none"> 1) 放射線・電磁波・粉塵 2) 環境汚染物質 6. 不妊症とその関連疾患 (野口光代) 7. 生殖補助医療 (野口光代) 8. 母子と免疫 (野口光代) <p><講義の進め方></p> <p>スライド・資料・DVDを用いて学生がイメージできるように講義する。</p> <p><受講要件></p> <p>なし</p> <p><テキスト></p> <ol style="list-style-type: none"> ①我部山キヨ子編集：助産学講座2第5版、医学書院 ②我部山キヨ子編集：助産学講座3第5版、医学書院 ③福岡秀興 妊産婦のための食生活バランスガイド、母子保健事業団 ④病気がみえるvol.10 産科第4版、メディックメディア <p><参考文献></p> <p>講師作成資料など</p> <p><評価方法></p> <p>江口博敏 客観式テスト 野口光代 客観式テスト 緒方智宏 客観式テスト</p>			

分野(領域)	基礎助産学	科目名	家族の心理・社会学
単位(時間)	1単位 30時間	開講時期	前期～後期
講師名 (時間・所属)	村久保雅孝 (12時間・佐賀大学医学部看護学科 准教授 臨床心理士) 川邊浩史 (10時間・西九州大学短期大学部幼児保育学科 准教授) 石井博修 (4時間・佐賀県医療センター好生館 精神科医師) 山口紀子 (4時間・看護学院教員)		
<p><科目設定理由></p> <p>助産の対象及び家族に母性・父性を育むことを支援するためには、家族の心理・社会的背景を理解する必要がある。</p> <p><科目目標></p> <p>母性・父性及び家族の特徴や関係性、心理や社会的背景を理解し、対象の主体性を尊重したケアを実践するための基礎知識を習得する。</p> <p><授業内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 女性と母性 (村久保雅孝) 2. 親になる選択 (村久保雅孝) 3. 夫婦・家族と支援 (村久保雅孝) 4. 母子関係 (村久保雅孝) 5. 母親と社会 (村久保雅孝) 6. 家族と社会 (川邊浩史) 7. 男性と父性 (川邊浩史) 8. 父子関係 (川邊浩史) 9. 父親と社会 (川邊浩史) 10. 子どもと社会 (川邊浩史) 11. マタニティサイクルのメンタルヘルス (石井博修) 12. 周産期のグリーフケア ペリネイタル・ロス (山口紀子) <p><講義の進め方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの内容に沿って講義する。 ・VTRで事例を提示し、家族の在り方や問題について考えさせる。 ・事例を通して学生が母性・父性・家族を具体的に理解するよう教授する。 <p><受講要件></p> <p>なし</p> <p><テキスト></p> <p>①我部山キヨ子編集：助産学講座4第5版、医学書院</p> <p><参考文献></p> <p>①我部山キヨ子編集：臨床助産師必携、第2版、医学書院 ②講師作成資料など</p> <p><評価方法></p> <p>村久保雅孝 客観式テスト 川邊浩史 論文体試験</p>			

分野(領域)	基礎助産学	科目名	研究
単位(時間)	1単位 15時間	開講時期	後期
講師名 (時間・所属)	森本眞寿代(8時間・西九州大学看護学科 講師 助産師) 川崎圭子・平尾幸恵・山口紀子(7時間・学院教員 助産師)		
<p><科目設定理由></p> <p>助産師としての実践活動及び助産学の発展、自己啓発・研鑽のためには、助産学研究を学ぶ必要がある。</p> <p><科目目標></p> <p>助産学研究の意義や手順を理解し、助産学研究の基礎知識を習得する。また、事例検討を通して自己を振り返り、よりよいケアの関わりについて考える。</p> <p><授業内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 助産学研究の目的と意義 (森本眞寿代) 2. 助産学研究を進める手順 (森本眞寿代) 3. 助産学研究の課題 (森本眞寿代) 4. 文献検索 (森本眞寿代) 5. 事例検討(分娩期) (川崎圭子・平尾幸恵・山口紀子) <p><講義の進め方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産に関する論文のクリティークをする。 ・分娩介助した事例について、学内で事例検討会を行う。 <p><受講要件></p> <p>なし</p> <p><テキスト></p> <p>①我部山キヨ子編集：助産学講座1第5版、医学書院</p> <p><参考文献></p> <p>講師作成資料、日本母性衛生学会誌、助産が助産学会誌など</p> <p><評価方法></p> <p>森本眞寿代 提出物による評価 川崎・平尾・山口 提出物による評価</p>			

分野(領域)	助産診断・技術学	科目名	周産期医療 I
単位(時間)	2単位 30時間	開講時期	前期
講師名 (時間・所属)	室 雅巳 (24時間・地独・佐賀県医療センター好生館 産婦人科医師) 金井督之 (6時間・地独・佐賀県医療センター好生館 産婦人科医師)		
<p><科目設定理由></p> <p>助産過程を展開するためには、妊娠期の生理と異常、医療や診断法に関する周産期医療の基礎を理解する必要がある。</p> <p><科目目標></p> <p>妊娠期の生理と病態を理解し、異常の早期発見、予防という観点から対象を援助する能力を養う。 妊娠期の診断力を強化するため、ME機器による診断の基礎的知識・技術を習得する。</p> <p><授業内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠の生理 (室 雅巳) 2. 胎児の成長と発達 (室 雅巳) 3. 妊娠期の異常とハイリスク妊娠 (室 雅巳) 4. 母子と薬剤 (室 雅巳) 5. ME機器とその診断法 (金井督之) 6. ME機器による総合的出産前胎児評価 (金井督之) <p><講義の進め方></p> <p>テキストおよび講師作成の資料をもとに講義する。</p> <p><受講要件></p> <p>なし</p> <p><テキスト></p> <ol style="list-style-type: none"> ①我部山キヨ子編集：助産学講座 6 第 5 版、医学書院 ②病気がみえる vol. 10 産科第4版、メディックメディア ③藤森敬也著：改訂3版胎児心拍数モニタリング講座、メディカ出版 ④日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修：産婦人科診療ガイドライン産科編2017 ⑤平澤美恵子監修：写真でわかる助産技術、インターメディカ ⑥梁栄治著：助産師と研修医のための産科超音波検査、改訂第2版、診断と治療社 <p><参考文献></p> <p>講師作成資料など</p> <p><評価方法></p> <p>室 雅巳 客観式テスト 金井督之 客観式テスト</p>			

分野(領域)	助産診断・技術学	科目名	周産期医療Ⅱ
単位(時間)	1単位 15時間	開講時期	前期～後期
講師名 (時間・所属)	津田聡子 (15時時間・NH0佐賀病院 産婦人科 医師)		
<p><科目設定理由></p> <p>分娩期及び産褥期の異常を予測し、早期に対応するためには、分娩期及び産褥期の病態、産科救急時の医療など周産期医療の基礎を理解する必要がある。</p> <p><科目目標></p> <p>分娩期及び産褥期の病態を理解し、異常の早期発見、予防という観点から対象を援助する能力を養う。 臨時応急の処置として、会陰切開縫合、局所麻酔の方法を理解する。</p> <p><授業内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩期及び産褥期の異常 2. 分娩期及び産褥期の偶発疾患 3. 産科麻酔・手術 4. 産科救急 5. 会陰切開縫合・局所麻酔 <p><講義の進め方></p> <p>テキストおよび講師作成の資料に沿って講義する。</p> <p><受講要件></p> <p>なし</p> <p><テキスト></p> <ol style="list-style-type: none"> ①我部山キヨ子編集：助産学講座7第5版、医学書院 ②病気がみえるvol.10 産科第4版、メディックメディア ③日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修：産婦人科診療ガイドライン産科編2017 ④藤森敬也著：改訂3版胎児心拍数モニタリング講座、メディカ出版 <p><参考文献></p> <p>講師作成資料など</p> <p><評価方法></p> <p>津田聡子 客観式テスト</p>			

分野(領域)	助産診断・技術学	科目名	周産期のハイリスク支援
単位(時間)	1単位 30時間	開講時期	前期～後期
講師名 (時間・所属)	南里美貴 (6時間・佐賀大学医学部附属病院 助産師) 平尾幸恵 (10時間・看護学院 助産学科教員 助産師) 山口紀子 (8時間・看護学院 助産学科教員 助産師) 尊田知美 (6時間・NHO佐賀病院 NICU 看護師)		
<p><科目設定理由> 周産期におけるハイリスクに対応するためには、ローリスクからハイリスクに移行するアセスメントとその支援について理解する必要がある。</p> <p><科目目標> ハイリスク妊産褥婦、新生児の症例を通して、アセスメントする基礎知識を習得し、支援する能力を養う。</p> <p><授業内容> 1. ハイリスク・異常妊婦のアセスメントと支援 (南里美貴) 2. ハイリスク・異常産婦のアセスメントと支援 (平尾幸恵) 3. ハイリスク・異常褥婦のアセスメントと支援 (山口紀子) 4. ハイリスク新生児ケアの基本 (尊田知美) 5. 低出生体重児のケア (尊田知美) 6. 両親の心理的危機への支援 (尊田知美)</p> <p><講義の進め方> テキストに沿って講義をする。 *NICU/GCU実習前に必ず授業内容及び試験内容を復習して臨む。</p> <p><受講要件> なし</p> <p><テキスト> ①我部山キヨ子編集：助産学講座6第5版、医学書院 ②我部山キヨ子編集：助産学講座7第5版、医学書院 ③病気がみえるvol.10 産科第4版、メディックメディア ④日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修：産婦人科診療ガイドライン産科編2017 ⑤藤森敬也著：改訂3版胎児心拍数モニタリング講座、メディカ出版</p> <p><参考文献> 講師作成資料など</p> <p><評価方法> 南里美貴 客観式テスト 平尾幸恵 客観式テスト 山口紀子 客観式テスト 尊田知美 客観式テスト</p>			

分野(領域)	助産診断・技術学	科目名	妊娠期の 助産診断・技術学
単位(時間)	1単位 30時間	開講時期	前期
講師名 (時間・所属)	平尾幸恵 (30時間・看護学院 助産学科教員 助産師)		
<p><科目設定理由></p> <p>妊娠期の助産過程を展開するためには、妊娠期の助産診断とケアができる能力を養う必要がある。</p> <p><科目目標></p> <p>妊婦を全人的に理解するとともに、妊娠期の経過診断能力と健康生活診断能力、フィジカルアセスメント能力を習得する。</p> <p><授業内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期の助産診断とケア 2. 妊娠期の心理社会的変化 3. 妊娠期のフィジカルアセスメント <p><講義の進め方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストおよび資料をもとに講義する。 ・妊婦腹部触診モデル、乳房モデルを用いて学生がイメージしやすいように講義する。 ・妊婦健診を妊婦体験服等を用いて学生間でロールプレイする。 <p><受講要件></p> <p>なし</p> <p><テキスト></p> <ol style="list-style-type: none"> ①病気がみえるvol.10 産科第4版、メディックメディア ②我部山キヨ子編集:助産学講座6第5版、医学書院 ③日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修:産婦人科診療ガイドライン産科編2017 <p><参考文献></p> <ol style="list-style-type: none"> ①平山宗宏:母子保健テキスト、母子保健事業団 ②母子健康手帳および副読本 ③講師作成資料など <p><評価方法></p> <p>平尾幸恵 客観式テスト2回</p>			

分野(領域)	助産診断・技術学	科目名	分娩期の助産診断技術学
単位(時間)	1単位 30時間	開講時期	前期
講師名 (時間・所属)	山口紀子 (30時間・看護学院 助産学科教員 助産師)		
<p><科目設定理由></p> <p>分娩期の助産過程を展開するためには、分娩期の助産診断とケアできる能力を養う必要がある。</p> <p><科目目標></p> <p>産婦を全人的に理解するとともに、分娩期の経過診断能力と健康生活診断能力、フィジカルアセスメント能力を習得する。</p> <p><授業内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩の生理及び分娩機転 2. 分娩期の助産診断とケア 3. 分娩期の心理社会的変化 4. 分娩期のフィジカルアセスメント <p><講義の進め方></p> <p>資料及びテキストに沿って講義する。 透明骨盤や模型を使って立体的に理解しやすいように講義する。 骨盤および胎児人形を用いて分娩機転のシミュレーションを行う。</p> <p><受講要件></p> <p>なし</p> <p><テキスト></p> <ol style="list-style-type: none"> ①我部山キヨ子編集：助産学講座3第5版、医学書院 ②我部山キヨ子編集：助産学講座7第5版、医学書院 ③藤森敬也著：改訂3版胎児心拍数モニタリング講座、メディカ出版 ④平澤美恵子監修：写真でわかる助産技術、インターメディカ ⑤榎引美代子著：カラー写真で学ぶ周産期の看護技術第2版、医歯薬出版 ⑥病気がみえるvol.10 産科第4版、メディックメディア ⑦日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修：産婦人科診療ガイドライン産科編2017 <p><参考文献></p> <p>講師作成資料など</p> <p><評価方法></p> <p>平尾幸恵 客観式テスト (2回)</p>			

分野(領域)	助産診断・技術学	科目名	産褥・新生児期の助産診断・技術学
単位(時間)	1単位 30時間	開講時期	前期
講師名 (時間・所属)	山口紀子(15時間・看護学院 助産学科教員 助産師) 森本眞寿代(15時間・西九州大学看護学科 講師 助産師)		
<p><科目設定理由></p> <p>産褥・新生児期の助産過程を展開するためには、産褥期・新生児期の助産診断とケアができる能力を養う必要がある。また、母乳育児については、保護・推進・支援について理解する必要がある。</p> <p><科目目標></p> <p>褥婦・新生児を全人的に理解するとともに、褥婦・新生児期の経過診断能力と健康生活診断能力、フィジカルアセスメント能力を習得する。 母乳育児支援については、分泌の解剖・生理、哺乳行動や授乳技術などを理解し、支援方法を習得する。</p> <p><授業内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 褥婦・新生児の助産診断とケア(山口紀子) 2. 褥婦の心理社会的変化(山口紀子) 3. 育児行動取得への援助(山口紀子) 4. 産褥・新生児期のフィジカルアセスメント(山口紀子) 5. 母乳育児支援(森本眞寿代) <ol style="list-style-type: none"> 1) 母乳分泌促進法・抑制法 2) 児の哺乳行動・哺乳サイン・吸着・吸啜 3) 授乳技術とセルフケア 4) 乳房トラブルの予防と対処法 5) 母乳育児のための社会資源 6) 母乳代用品の安全性 <p><講義の進め方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストおよび資料を用いて経日的変化を理解する。 ・乳房モデルや新生児モデルを用いて学生がイメージしやすいように講義する。 ・産褥の経過を学生間でロールプレイする。 <p><受講要件></p> <p>なし</p> <p><テキスト></p> <ol style="list-style-type: none"> ①我部山キヨ子編集:助産学講座7第5版、医学書院 ②横尾京子編集:助産学講座8第5版、医学書院 ③第3版プリンシプル産科婦人科学2産科編、メジカルビュー社 ④NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編集:母乳育児支援スタンダード第2版、医学書院 ⑤櫛引美代子著 カラー写真で学ぶ新生児の観察と看護技術、医歯薬出版 ⑥日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修:産婦人科診療ガイドライン産科編2017 <p><参考文献></p> <p>講師作成資料など</p> <p><評価方法></p> <p>山口紀子 客観式テスト 森本眞寿代 客観式テスト</p>			

分野(領域)	助産診断・技術学	科目名	助産診断過程
単位(時間)	1単位 30時間	開講時期	前期
講師名 (時間・所属)	平尾幸恵 (8時間・看護学院 助産学科教員 助産師) 山口紀子 (22時間・看護学院 助産学科教員 助産師)		
<p><科目設定理由> 対象に対して責任を持ってケアするためには、科学的根拠に基づいた助産診断過程を展開する必要がある。</p> <p><科目目標> 妊娠・分娩・産褥・新生児期の各期における助産診断過程のプロセスを展開できる。</p> <p><授業内容> 1. 助産診断の概要 (平尾幸恵) 2. 妊娠期の助産診断過程 (平尾幸恵) 3. 分娩期の助産診断過程 (山口紀子) 4. 産褥・新生児期の助産診断過程 (山口紀子)</p> <p><講義の進め方> 妊娠・分娩・産褥・新生児期各期について助産診断過程の展開理解し各自で立案する。</p> <p><受講要件> なし</p> <p><テキスト> ①我部山キヨ子編集:助産学講座6、第5版, 医学書院 ②我部山キヨ子編集:助産学講座7、第5版, 医学書院 ③我部山キヨ子編集:助産学講座8、第5版, 医学書院 ④日本助産診断・実践研究会編著:実践マタニティ診断第4版、医学書院</p> <p><参考文献> 購入した教科書すべて</p> <p><評価方法> 提出物による評価 (3回) *この授業科目に合格すれば、基礎I実習を受講できる。</p>			
井田裕子 客観式テスト1回			

分野(領域)	助産診断・技術学	科目名	母子の補完代替医療
単位(時間)	1単位 15時間	開講時期	前期～後期
講師名 (時間・所属)	川崎あゆみ(4時間・アロマスクールアバンダンシア 助産師) 井田裕子(7時間・ママと赤ちゃんの家からこ 助産師) 芦刈美和(4時間・どーなつ助産院、整体LiLas 助産師)		
<p><科目設定理由></p> <p>母子の健康状態を良好に保つためには、妊産褥婦の主体性を尊重し、個別性に応じた補完代替医療について理解する必要がある。</p> <p><科目目標></p> <p>妊産褥婦や新生児の多様性を理解し、対象に必要な補完代替医療を選択できる。</p> <p><授業内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アロマセラピーの基礎知識 (川崎あゆみ) 2. 産科領域でのアロマセラピー (川崎あゆみ) 3. タッチケア (井田裕子) 4. 温熱療法 (井田裕子) 5. 妊産褥婦の骨盤ケア (芦刈美和) 6. 新生児の骨盤ケア (芦刈美和) <p><講義の進め方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アロマに関する基本的知識を習得したうえで、学生間でマッサージを体験する。 ・妊娠期のマイナートラブルや育児不安を取り除くタッチケアの実際を学ぶ。 ・妊産褥婦および新生児の骨盤ケアの方法について学ぶ。 <p><受講要件></p> <p>なし</p> <p><テキスト></p> <ol style="list-style-type: none"> ①我部山キヨ子編集：助産学講座3第5版、医学書院 ②我部山キヨ子編集：助産学講座6第5版、医学書院 ③我部山キヨ子編集：助産学講座7第5版、医学書院 ④第3版プリンシプル産科婦人科学2、産科編、メジカルビュー社 ⑤仁志田博司著：新生児学入門第4版、医学書院 ⑥藤森敬也著：改訂2版胎児心拍数モニタリング講座、メディカ出版 <p><参考文献></p> <p>講師作成資料など</p> <p><評価方法></p> <p>井田裕子 客観式テスト1回</p>			

分野(領域)	助産診断・技術学	科目名	分娩介助学
単位(時間)	1単位 30時間	開講時期	前期～後期
講師名 (時間・所属)	平尾幸恵(12時間・看護学院 助産学科教員 助産師) 平尾幸恵・川崎圭子・山口紀子(18時間・学院教員 助産師)		
<p><科目設定理由></p> <p>自己の責任のもとに正常な分娩を安全に介助するためには、分娩介助の基礎知識と正確な分娩介助技術を習得する必要がある。</p> <p><科目目標></p> <p>分娩介助の意義や原則を理解し、分娩介助の技術を習得する。 対象の状態に応じて柔軟性を持って分娩介助の方法を選択できる。</p> <p><授業内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩介助の意義・原理 (山口紀子) 2. 正常分娩介助法の原理 (山口紀子) 3. 分娩介助の技術 (山口紀子) 4. 付属物の検査と計測 (山口紀子) 5. 出生直後の新生児のケア (山口紀子) 6. フリースタイル分娩 (山口紀子) 7. 分娩介助技術 (山口紀子・川崎圭子・平尾幸恵) <p><講義の進め方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩介助モデルを用いて分娩介助の基本的な技術を習得する。 ・人工破膜の手技は模型を用いてデモンストレーションする。 ・付属物の検査と計測および出生直後の新生児のケアは模型を用いてデモンストレーションする。 ・分娩開始から歩行開始まで連続してシミュレーションをおこなう。 ・分娩の進行(初産婦・経産婦)に合わせた分娩介助の方法について学ぶ。 ・DVDを用いて実習施設ごとの分娩介助技術を習得する。 <p><受講要件></p> <p>なし</p> <p><テキスト></p> <ol style="list-style-type: none"> ①我部山キヨ子編集：助産学講座7第5版、医学書院 ②横尾京子編集：助産学講座8第5版、医学書院 ③平澤美恵子監修：写真でわかる助産技術、インターメディカ ④榎引美代子著：カラー写真で学ぶ周産期の看護技術第2版、医歯薬出版 ⑤第3版プリンシプル産科婦人科学2産科編、メジカルビュー社 ⑥日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修：産婦人科診療ガイドライン産科編2017 <p><参考文献></p> <p>講師作成資料など</p> <p><評価方法></p> <p>山口紀子 客観式テスト1回 分娩介助技術評価(前期1回、後期1回) *分娩介助技術評価(前期)を合格すれば、基礎I実習を受けることができる。</p>			

分野(領域)	助産診断・技術学	科目名	健康教育 I
単位(時間)	1単位 15時間	開講時期	前期
講師名 (時間・所属)	北島茂樹 (10時間・福岡女学院大学大学院 非常勤講師) 平尾幸恵 (5時間・看護学院 助産学科教員 助産師)		
<p><科目設定理由></p> <p>対象の行動の変容を促すためには、健康教育の意義や技術、実施方法について理解する</p> <p><科目目標></p> <p>相談や教育活動の基礎知識を習得し、指導案や媒体の作成方法を習得できる。</p> <p><授業内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 相談・教育活動の技術 (北島茂樹) 2. 相談・教育活動の実際 (北島茂樹) 3. 指導案作成 (平尾幸恵) 4. 媒体作成 (平尾幸恵) <p><講義の進め方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドや資料にそって健康教育に必要な基礎理論を講義する。 ・健康教育に必要な指導案および媒体作成し、実施・評価する。 <p><受講要件></p> <p>なし</p> <p><テキスト></p> <ol style="list-style-type: none"> ①我部山キヨ子編集：助産学講座2第5版、医学書院 ②我部山キヨ子編集：助産学講座3第5版、医学書院 ③堀内茂子編集：助産学講座5第5版、医学書院 ④財団法人母子衛生研究会編集：母子保健テキスト、母子保健事業団 ⑤日本家族計画協会編集：受胎調節指導用テキスト、日本家族計画協会 <p><参考文献></p> <p>講師作成資料など</p> <p><評価方法></p> <p>北島茂樹 客観式テスト</p>			

分野(領域)	助産診断・技術学	科目名	健康教育Ⅱ
単位(時間)	1単位 45時間	開講時期	前期～後期
講師名 (時間・所属)	平尾幸恵 (16時間・看護学院 助産学科教員 助産師) 川崎圭子・平尾幸恵・山口紀子 (24時間・看護学院 助産学科教員) 龍 悦子 (5時間・ストレッチ教室 健康管理士一般指導員)		
<p><科目設定理由> 対象の行動を変容を促すためには、健康教育の効果的な方法を理解し、実践力が必要である。</p> <p><科目目標> 女性の体について理解し、健康教育やピア講義を通して、企画力やプレゼンテーションの方法を習得する。</p> <p><授業内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康教育の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 女性の健康アプローチ (川崎圭子・平尾幸恵・山口紀子) 2) ピア講義 (平尾幸恵) 3) 出産準備教育 (川崎圭子・平尾幸恵・山口紀子) 2. 女性の体づくり・運動理論 (龍 悦子) <p><講義の進め方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康教育に必要な指導案および媒体を作成し、実施・評価する。 <ol style="list-style-type: none"> ①指導案作成 ②健康生活指導 ③ピア講義 (総合看護学院 看護学科1年生) ・実際に運動をしながら女性の体づくりを体験する。 <p><受講要件> なし</p> <p><テキスト></p> <ol style="list-style-type: none"> ①我部山キヨ子編集：助産学講座2第5版、医学書院 ②我部山キヨ子編集：助産学講座3第5版、医学書院 ③堀内茂子編集：助産学講座5第5版、医学書院 ④財団法人母子衛生研究会編集：母子保健テキスト、母子保健事業団 ⑤日本家族計画協会編集：受胎調節指導用テキスト、日本家族計画協会 <p><参考文献></p> <ol style="list-style-type: none"> ①母子健康手帳および副読本 ②講師作成資料など <p><評価方法> 各健康教育発表の総合評価 (指導案・媒体・方法・参加態度など) 5回</p>			

分野(領域)	地域母子保健	科目名	地域母子保健
単位(時間)	1単位 15時間	開講時期	前期～後期
講師名 (時間・所属)	川崎圭子(8時間・看護学院 助産学科教務主任 助産師) 中隈温子(2時間・佐賀県こども家庭課 保健師) 田中 惟(2時間・佐賀市 健康づくり課 保健師) 秀坂あい(3時間・あかね育児相談室 助産師)		
<p><科目設定理由></p> <p>地域母子保健の推進のためには、母子保健の意義や母子訪問の実際を理解するとともに、保健・医療・福祉関係者と連携・協働しながら取り組むことを理解する必要がある。</p> <p><科目目標></p> <p>母子保健についての国の情勢や対策、地域における現状や動向について理解する。 母子訪問に必要な基礎知識・技術・態度を身につける。</p> <p><授業内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母子保健の意義 (川崎圭子) 2. 母子保健の現状と動向 (川崎圭子) 3. 国際母子保健 (川崎圭子) 4. 母子保健法 (中隈温子) 5. 地域母子保健行政 (中隈温子) 6. 地域における育児支援 (田中 惟) 7. 母子訪問の実際 (秀坂あい) <p><講義の進め方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストに沿って日本の母子保健の現状について講義する。 ・佐賀市の母子保健事業について説明し地域における育児支援について理解させる。 ・母子訪問は乳房モデルや新生児モデルを使って学生間でロールプレイする。 <p><受講要件></p> <p>なし</p> <p><テキスト></p> <ol style="list-style-type: none"> ①我部山キヨ子編集：助産学講座1第5版、医学書院 ②我部山キヨ子編集：助産学講座9第5版、医学書院 ③国民衛生の動向2019/2020一般社団法人厚生労働統計協会(一部) ④わが国の母子保健2020年、母子衛生研究会 <p><参考文献></p> <p>講師作成資料など</p> <p><評価方法></p> <p>川崎圭子 客観式テスト</p>			

分野(領域)	助産管理	科目名	助産管理
単位(時間)	1単位 30時間	開講時期	前期～後期
講師名 (時間・所属)	川崎圭子 (14時間・看護学院 助産学科教務主任 助産師) 川崎圭子・山口紀子 (8時間・学院教員 助産師) 平尾幸恵・山口紀子 (4時間・学院教員 助産師) 松下キヨ子 (4時間・きやま助産所 助産師)		
<p><科目設定理由></p> <p>助産における医療安全の確保と医療事故への対応のためには、助産業務管理の基本を理解し、さまざまな場面を想定した管理の実際を理解する必要がある。</p> <p><科目目標></p> <p>助産業務の管理、関係法規、助産所の運営、周産期医療システム等について理解する。医療事故、医療訴訟、災害等のリスクマネジメントと対応できる能力を養う。</p> <p><授業内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 助産管理の基本 (川崎圭子) 2. 関連法規と助産師の義務・責任 (川崎圭子) 3. 周産期医療システムとリスクマネジメント (川崎圭子・山口紀子) 4. 病産院における助産管理 (川崎圭子) 5. 医療事故と助産師 (川崎圭子) 6. 災害時の母子支援 (川崎圭子) 7. 周産期のリスクマネジメントの実際 (川崎圭子・山口紀子) 8. 産科棟の管理の実際 (平尾幸恵・山口紀子) 9. 助産所における管理の実際 (松下キヨ子) <p><講義の進め方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストに沿って助産管理を理解させる。 ・インシデント・アクシデント事例についてグループワークする。 ・スライドを使って医療事故についての理解を深めさせる。 <p><受講要件></p> <p>なし</p> <p><テキスト></p> <ol style="list-style-type: none"> ①武谷雄二編集：助産学講座10第5版、医学書院 ②看護六法 2020年版：新日本法規 ③日本助産師会編集：助産業務ガイドライン2014、日本助産師会 <p><参考文献></p> <p>講師作成資料など</p> <p><評価方法></p> <p>川崎圭子 客観式テスト(1回) 松下キヨ子 客観式テスト 演習後の論文体試験 (3回)</p>			

分野(領域)	助産管理	科目名	周産期の社会保障
単位(時間)	1単位 15時間	開講時期	前期～後期
講師名 (時間・所属)	田代勝良 (15時間・佐賀県社会福祉士会 会長 社会福祉士)		
<p><科目設定理由> 健全な母子保健、子育て支援を行うためには、母子をめぐる問題に対応する社会保障制度を理解する必要がある。</p> <p><科目目標> 法律や制度をはじめとした様々な社会保障や社会資源を理解し、母子が必要とする支援に結びつけることができる能力を養う。</p> <p><授業内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 次世代育成支援 2. 児童家庭福祉 3. 障害者福祉 4. 公的扶助 5. 母性保護措置 6. 家族と法 (国際含む) <p><講義の進め方> テキストやVTRをつかって社会保障制度について理解させる。</p> <p><受講要件> なし</p> <p><テキスト></p> <ol style="list-style-type: none"> ①武谷雄二編集：助産学講座10第5版、医学書院 ②看護六法 2020年版：新日本法規 <p><参考文献> 講師作成資料など</p> <p><評価方法> 田代勝良 客観式テスト</p>			

分野(領域)	助産学実習	科目名	基礎 I 実習
単位(時間)	2単位 90時間	開講時期	前期
講師名 (時間・所属)	川崎圭子・平尾幸恵・山口紀子(90時間・看護学院 助産学科教員) 坂口尚子・水田豊子・溝口明美・岡部千穂(実習指導教員 助産師)		
<p><科目設定理由> 学生が安心して実習に臨み、安全な助産を行うための準備段階とし、学生の助産師としての職業アイデンティティを育成するとともに観察力を強化する必要がある。</p> <p><科目目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産褥婦及びその家族に接し、助産師の役割を学ぶ。 2. 妊産褥婦及び新生児の観察方法・観察の視点・助産師の考え方を学ぶ。 3. 分娩見学を行い助産師の役割と責任について考える。 4. 実習指導者とともに、分娩介助を実践できる。 5. 出産に向けた体の準備・心の準備の方法について学ぶ。 6. 継続事例と良好な関係を築き、対象を理解する。 <p><授業内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期の診断とケア 2. 妊娠期の診断とケア(継続事例) 3. 産褥期の診断とケア 4. 新生児期の診断とケア 5. 分娩期の診断とケア(産婦ケア見学) 6. 分娩期の診断とケア(分娩介助1・2回目) 7. 分娩期の診断とケア(誘導分娩時) 8. 母親学級見学 <p><実習の進め方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習中は臨床実習指導者および教員、実習指導教員の指導を受ける。 ・実習要綱に沿って実習する。 <p><受講要件></p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩介助学の分娩介助の技術評価(1回目)を受けて合格していること。 ・助産診断過程の展開を提出し合格していること。 <p><テキスト><参考文献> 購入した図書すべて</p> <p><評価方法> 実習評価表・論文体試験等実習要綱参照</p>			

分野(領域)	助産学実習	科目名	基礎Ⅱ実習
単位(時間)	2単位 90時間	開講時期	前期
講師名 (時間・所属)	川崎圭子・平尾幸恵・山口紀子(90時間・看護学院 助産学科教員) 坂口尚子・水田豊子・溝口明美・岡部千穂(実習指導教員 助産師)		
<p><科目設定理由> 実習指導者の指導の下に助産診断し、助産を実践する準備段階とし、診断力を強化する必要がある。</p> <p><科目目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産褥婦及び新生児の計測を正しく実践できる。 2. 妊産褥婦及び新生児の診断に必要な情報を収集できる。 3. 超音波画像及び胎児心拍数モニタリング波形がわかる。 4. 実習指導者の指導の下に、安全に分娩介助ができる。 5. 帝王切開における助産師の役割を学ぶ。 6. 出産準備教育の企画・運営方法について学ぶ。 7. 継続事例の支援ができる。(出産準備教育、分娩介助、産褥・新生児のケア) <p><授業内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の診断とケア(継続事例) 2. 妊娠期の診断とケア 3. 分娩期の診断とケア(分娩介助3・4回目) 4. 分娩期の診断とケア(誘導分娩時) 5. 産褥・新生児期の診断とケア 6. 帝王切開術 7. 母親学級見学 <p><実習の進め方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習中は臨床実習指導者および教員、実習指導教員の指導を受ける。 ・実習要綱に沿って実習する。 <p><受講要件></p> <p>基礎Ⅰ実習を終了し合格していること。</p> <p><テキスト><参考文献></p> <p>購入した図書すべて</p> <p><評価方法></p> <p>実習評価表、論文体試験他、実習要綱参照</p>			

分野(領域)	助産学実習	科目名	前期実習
単位(時間)	3単位 135時間	開講時期	前期
講師名 (時間・所属)	川崎圭子・平尾幸恵・山口紀子(90時間・看護学院 助産学科教員) 坂口尚子・水田豊子・溝口明美・岡部千穂(実習指導教員 助産師)		
<p><科目設定理由></p> <p>自らの診断に基づいた助産を行うため、経過に応じた診断及びケアの実践力を強化する必要がある。</p> <p><科目目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠経過から分娩・産褥の予測及び指導ができる。 2. 超音波所見・モニター所見から胎児の状態を診断できる。 3. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の経過診断・健康生活診断及び指導ができる。 4. 実習指導者の指導の下に安全に分娩介助ができる。 5. 分娩の進行に伴う産婦及び家族のケアができる。 6. 退院後に必要な支援について理解する。 7. ハイリスク児のケアについて学ぶ。 <p><授業内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期の診断とケア 2. 分娩期の診断とケア(分娩介助5~7回目) 3. 分娩期の診断とケア(誘導分娩時) 4. 分娩間接介助 5. 帝王切開術 6. 産褥・新生児期の診断とケア 7. NICU実習 <p><実習の進め方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習中は臨床実習指導者および教員、実習指導教員の指導を受ける。 ・実習要綱に沿って実習する。 <p><受講要件></p> <p>基礎Ⅰ実習及び基礎Ⅱ実習を終了し、合格していること。</p> <p><テキスト><参考文献></p> <p>購入した図書すべて</p> <p><評価方法></p> <p>実習評価表、論文体試験他、実習要綱参</p> <p>*分娩介助評価、助産記録評価については、分娩介助回数が7回に達した時点で評価する。</p> <p>*実習期間内に分娩介助回数が不足している者は、実習期間終了後に分娩待機実習を行う。</p> <p><分娩待機実習>学則細則第6条を満たし、分娩介助回数が7回に満たない場合に行う。 実習施設からの呼び出しを受けて実習を開始する。 実習内容は分娩第1期から分娩終了後2時間までの観察およびケアとする。</p>			

分野(領域)	助産学実習	科目名	後期実習
単位(時間)	4単位180時間	開講時期	前期～後期
講師名 (時間・所属)	川崎圭子・平尾幸恵・山口紀子 (90時間・看護学院 助産学科教員) 坂口尚子・水田豊子・溝口明美・岡部千穂 (実習指導教員 助産師)		
<p><科目設定理由></p> <p>対象のニーズや個別性に対応した助産を提供するために応用力を強化する必要がある。 また、助産所や子育て支援について理解する必要がある。</p> <p><科目目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩・産褥・新生児期の経過診断・健康生活診断及び指導ができる。(個別性) 2. 対象にとって満足のいく助産ケアを提供できる能力を養う。 3. 助産所開設・管理運営の実際を学び、開業助産師の活動を理解する。 4. 実習指導者の指導の下に安全かつ対象の主体性を尊重した分娩介助を実践できる。 <p><授業内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩期の診断とケア (分娩介助8回目以降) 2. 分娩期の診断とケア (誘導分娩時) 3. 産褥・新生児期の診断とケア 4. 助産所実習 5. 保健所実習 6. 市町村実習 <p><実習の進め方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習中は臨床実習指導者および教員の指導を受ける。 ・実習要綱に沿って実習する。 <p><受講要件></p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩介助学Ⅱの分娩介助の技術評価(2回目)を受け、合格していること。 ・基礎Ⅰ・Ⅱおよび前期実習を終了し、合格していること。 <p><評価方法></p> <p>実習評価表、論文体試験他、実習要綱参照</p>			

分野(領域)	特別講義教養	科目名	特別講義
単位(時間)	15時間	開講時期	前期～後期
講師名 (時間・所属)	田中秀文 (6時間・佐賀女子短期大学 非常勤講師) 松尾尚子 (2時間・アート・ミュージック音楽教室 ピアノ講師) 寺田恵子 (4時間・めぐみ助産院 助産師) 寺野幸子 (3時間・NPO法人 poco a bocca 代表)		
<p><科目設定理由> 助産師として対象の多様な価値観を理解し受け入れるためには、広い視野が必要である。</p> <p><科目目標> ①助産に携わる専門職業人としての豊かな教養を身につける。 ②社会の変化に関心を持ち、助産師の役割を考える機会とする</p> <p><授業内容> 1. マタニティサイクルの英会話 (田中秀文) 2. 音楽 (松尾尚子) 3. 助産師独自のケア (寺田恵子) 4. 助産師に期待するもの (寺野幸子)</p> <p><講義の進め方> 講師作成の資料を基に講義を進める。</p> <p><テキスト> なし</p> <p><参考文献> 講師作成資料、英和辞典</p> <p><評価方法> なし (単位換算なし)</p>			